

今がチャンス！ 新しい力を大きな推進力に変えて！



東海村長 山田 修

皆さん、明けましておめでとうございます。

今年も村民の皆さまの安寧を願い、豊かなまちづくりに努めてまいりますので、よろしく願います。

今回の特集では、東海村商工会青年部の活躍を取り上げましたが、こうした新しい力が芽生えてきたことを大変嬉しく思っています。

村内では今、多方面で活躍する若い人たちの姿が目立ってきているように感じます。この勢いを結集することができれば、まちづくりの大きな推進力になることは間違いないと信じています。

特に、茨城国体に向けて本村をアピールするためには、若い人たちの力が必要であり、その活躍する姿に大いに期待しています。



特集 一人ひとりの思いをひとつに 商工会青年部の挑戦 ～「夢を叶える」イルミネーション～



村の新たな冬のシンボルとして、多くの人を魅了しているJR東海駅前のイルミネーション。東海村商工会青年部(以下、「青年部」)が自ら企画・運営するイルミネーションの取り組みが、観光客の誘致と駅前商店街の活性化に貢献したことが高く評価され、2つの全国的な大会で表彰されました。

今回、青年部の皆さんがその報告に訪れ、村の将来を担う若い世代として、自らまちを動かそうとした思いなどについて語ってくれました。

【受賞】第19回全国商工会青年部連合会全国大会(平成29年11月21日・22日開催)
「平成29年まちづくり部門」全国顕彰
第57回商工会全国大会(平成29年11月16日開催)「中小企業長官表彰」



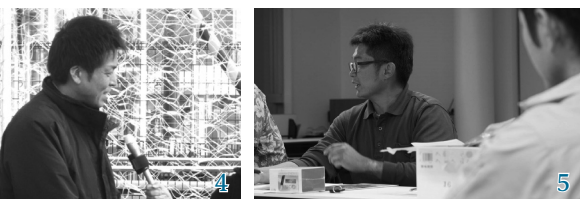
1



2



3



5

1. 当時のJR常磐線東海駅 2. 青年部会議で課題解決に向けて議論する部員たち 3. イルミネーションの設営作業をする青年部員の皆さん 4. PRのためラジオの番組に出演する松本拓馬前イルミネーション実行委員長 5. 議論する佐藤健太郎前青年部長

R 東日本と話し合いを進めると、高圧の電線などの安全性の問題や、信号機と見間違え可能性があるので、赤色は使用できないなど、多くの制限がありました。また、期間中は会場を無償で提供していただけることになりました。

しかし、新たな課題が…
こうして、JR東日本と村の協力もあり、課題は解決していきました。しかし、イルミネーションの実現には、予算計画上、新たに最低でも約100万円もの材料費が必要となることが分かったのです。

村民の方が、自ら企画して実施する事業に対し、最大30万円の補助金を交付するものです。

「それならば自分たちでイルミネーションを実現してみよう」と、青年部で企画することになったのです。

会場となる駅前広場について、J

ならば、自分たちで！

多くの人が利用するJR常磐線では、当時、近隣のほぼ全ての駅前ではイルミネーションが実施されていませんでした。しかし、費用や会場の問題などもあつてか、これまで東海駅前ではイルミネーションが実施された事がなかったのです。

費用的な補助はもちろん、話し合いを通して村職員とつながりを持てたことが一番の成果でした。困った時に相談できる人が各部署にいることは、後々とても助かりました。

【村民企画提案事業費補助金】

村民主体による「まちづくり」を応援するため、村の魅力やにぎわいづくり、子育て支援、子どもたちの郷土愛の醸成などを目的にしています。

自分たちが、今、出来ることは？ ならば自分たちで叶えよう！

なぜ、青年部でイルミネーション？

今回で3回目となるJR東海駅前のイルミネーションは、会場を駅西口広場から駅東口近くの駅東第2公園に変更し、2月17日(土)までの毎日、午後5時から午前0時まで点灯しています。
発光ダイオード(LED)電球も約4万個と年々華やかになっていきます。皆さんも一度は目にしたいことがあるのではないだろうか。実は、このイルミネーション、商工会の青年部が企画から運営までを行っていたことを存じでしたか。

青年部は、村商工会に所属する40歳以下の経営者や、その後継者で構成されており、現在、42人で活動しています。今回は、佐藤高雅青年部長を中心に、これまでの取り組みやその思いなどを語ってくれました。

青年部の会議では、毎回、課題であつた観光客の誘致と、活気を失っていた駅前商店街の活性化のために、自分たちで何かできることはないかと議論を重ねていました。そんな中、ある部員の何気ない一言が、青年部でイルミネーションを始めるきっかけとなりました。それは、普段、通学で電車を利用する高校生の娘さんからの「なぜ、東海村にだけ駅前のイルミネーションがないの」との疑問の声でした。

偶然重なったチャンス

同時に、村とも話し合いを進めました。その時に、ちょうど村発足60周年を記念して企画された「村民企画提案事業」を活用できることが分かり、選考の結果、採用されることになりました。

ピンチをチャンスに！ 青年部だからできること

資金を集めるために、まずは、村内のイベント会場でのチラシ配布や、フェイスブックを活用するなど、イルミネーションを認知してもらうことから始めました。

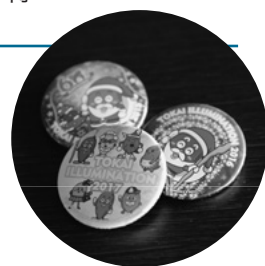
イルミネーションは素人だけど、溶接ならプロだから…

人件費などを節約するため、設計やLEDの取り付けなど、製作から設営作業までを各分野のプロである部員自らが手作りで行いました。設

計や電気配線、土木、広告宣伝が得意な者など、それぞれの技能を発揮しながら、手分けして作業を進めました。初めてのことも、皆で助け合えたことが青年部ならではの強みだと思います。

残る費用は？ 何とかならないか…

不足していた費用をカバーするため、1口500円の「光のサポーター」協賛金の募集を開始しました。



これは、サポーターになっていただいた方に、オリジナル缶バッチをプレゼントするということです。各

部員が村内の企業や事業所などを訪問したり、駅で村高校生会と共同で協賛を呼びかけたりしました。駅では、始めたころは話さず聞いてもらえない状況でしたが、イルミネーションが認知されると、「今年も楽しみにしてます」など、年々応援の声に変わっていきました。今回は、約1700口もの協賛金が集まり、最大のネックであった予算的な課題も解決していきました。



東海村商工会青年部
高野 翼 さん



6. トンネル部分のフレームを加工する川崎悟さん
7. 青年部員の工場での溶接作業 8. フレームを組み立てる青年部の皆さん 9. 村高校生会と共同でPR 10. 点灯式でのイルミネーション実行委員長の中川晃太郎さん 11. 光のサポーター協賛の呼びかけに、村内事業所の訪問をする青年部の清宮伸太郎さん

青年部の各部員は、小さな会社を経営している者が多く、お客様の約8割が村民の方々です。そのため、「地域の人に恩返ししたい」「村のために何かしたい」との共通の思いが根底にあります。その思いは、光のサポーターで訪問した企業や事業所で働く方たちも同じでした。これは、今後のまちづくりの大きな力になると思います。

イルミネーションが村の風物詩として認知され、村民が自慢できるようなものになってほしいですね。ちよつとしたことでも実際に参加する人が増えて、「みんなで作る」イルミネーションを通して、村がひとつになれば嬉しいです。東海村という小さなコミュニティに、たくさんの方が住んでいます。思いをひとつに、人の交流がもっと増えることを期待しています。

思いをひとつに。 そして、広がり大きな力に！

どんどん増えるボランティア
感じた、広がりという可能性

10月下旬から約1か月以上もの間、平日のほぼ毎日、部員は、それぞれの仕事を終えると集合してイルミネーションの設置作業を続けました。その間、村内の企業や事業所に勤務する方、役場や社会福祉協議会の皆さんなど、ボランティアは、多いときで一日30人近くにもなりました。こんなにたくさんの方に来てい

ただけたことに感謝しています。山田村長も定期的に様子を見に来てくれました。多くの方の協力を受けて、3年目にしてイルミネーションの輪が、すごく大きく広がっていることを実感しています。

このように、青年部から始まったイルミネーションは、子どもから大人までの多くの方が訪れ、駅前の活性化を超えて、村民の思いをひとつにしたまちづくりにもつながることができたのではないかと思います。



12. 点灯式での記念撮影 13. イルミネーションの飾り付けを手伝うボランティアの皆さん 14. ボランティアと青年部とでの記念撮影



青年部から始まったイルミネーションですが、私達の思いは、「村一丸となつて作るイルミネーション」です。

光のサポーターとして村民の方々にも協力していただき、今年もたくさんの光を点灯することができました。

子どもたちが笑顔になり、またその家族の話題として会話が增え、そして、多くの方々の輪が広がることを期待しています。思いをひとつに、みんなで助け合えば、必ずできる。その姿を、将来を担う子供たちが見て、その思いを引き継いでくれると嬉しいですね。

イルミネーションを継続してほしいとの反響も頂いています。村の玄関口である東海駅を明るくし、また村民の方々を明るくするため、これからも青年部活動を頑張っていきます。



東海村商工会青年部長
佐藤 高雅 さん